

新病院基本構想（案）からの主な変更点

項目	変更の考え方	基本構想	基本構想(案)の表現
はじめに	「はじめに」の文末に今後の進め方を明記。	市議会を始め、市民の皆様にも十分説明を行い、ご意見を伺いながら、21世紀にふさわしい子ども達のための病院づくりを進めてまいります。	記載なし。
こども病院・感染症センターの現状と課題 ③患者の動向	パブリック・コメントで情報公表要請があった「搬送元所在地別新生児入院状況構成比」について円グラフを追加記載。	<p>P 11</p>	記載なし。 (P 11)
PFI方式の採用（費用比較）	従来方式とPFI方式の事業費総額の試算を行い、記載。	※欄外参照 P 33	記載なし。 (P 31～)
個室に関して	個室に関して、様々な意見もいただいております、それを踏まえ、今後、検討を行って行くことを明記。	○子ども達のプライバシーを尊重し、また、子ども達が自宅で過ごしているような気持ちになれることをめざして、個室を多く設けます。なお、個室の数、施設内容、運営方法などについては、今後、検討を行ってまいります。	○子ども達のプライバシーを尊重し、また、子ども達が自宅で過ごしているような気持ちになれることをめざして、個室を多く設けます。 P 33
医療機能の拡張性	9月議会における、「新病院の整備に関する決議」を踏まえ、記述を追加。 ※決議内容 新病院は「小児・周産期医療機能」に「成育医療機能」を併せ持つ市民のための病院とし、将来的に高度先進医療などの機能拡充についても検討すること。	新病院は近隣及び各地の医療機関との機能分担・連携による相互補完的な取組を基本にしていますが、医療環境の変化に応じて機能の拡張について検討を行うことも必要になると考えられます。その際には、病院事業運営審議会における、本市が担うべき医療機能に関する専門的見地からの審議も踏まえ、取り組んでまいります。	新病院は近隣及び各地の医療機関との機能分担・連携による相互補完的な取組を基本にしていますが、医療環境の変化に応じて機能の拡張について検討を行うことも必要になると考えられます。 P 34
事業収支見込み	収支見込みについて、基本構想レベルの試算であり、今後、段階に応じた試算を行って行くことを明記。	この基本構想では、現時点で想定される前提条件を基に収支試算を行っています。なお、今後事業の詳細を詰める中で、その段階に応じた試算を行ってまいります。	新病院の運営にかかる事業収支を試算するため、次のとおり主な前提条件を想定します。 P 36
今後の検討課題	事業収支に関して、様々な意見をいただいております、特に、右記4つの点について、今後、詳細に検討を進めるうえでの課題として明記。	(3) 今後の検討課題 今後、特に以下のような点について詳細に検討を進めます。 ①用地取得費 (略) ②建設費 (略) ③個室料、駐車料 (略) ④全体的な経費の削減 (略)	記載なし。 (P 36)

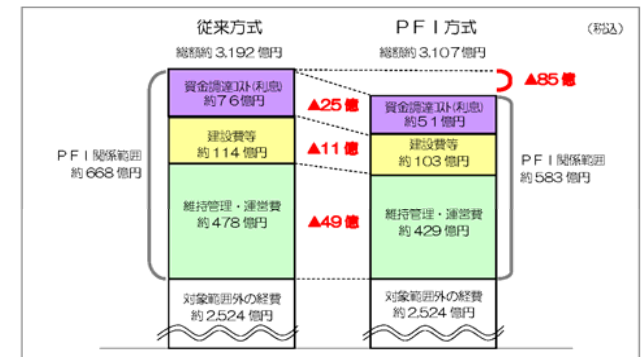
項目	変更の考え方	基本構想	基本構想(案)の表現
市民・医療関係者への説明	今後の進め方について、市民や、医療関係者の意見を伺いながら進めていくことを明記。	(1) 市民への説明 市民に向けて、市政だより、市のホームページなどを活用し、新病院に関する情報提供を十分に行っていくとともに、機会あるごとに説明を行い、ご意見を伺いながら、より良い病院づくりを進めていきます。 (2) 医療関係者への説明 医師会をはじめ医療関係の方々へは、機会を捉えて新病院整備に関する説明を行っていくとともに、ご意見を伺いながら進めていきます。 P 41	記載なし。 (P 39)
参考資料	参考資料として関係する資料を添付。	I 新病院の整備場所の決定について II 市立病院の経営形態について III PFIについて IV 収支試算について V 市民意見（パブリック・コメント）の概要について VI 新病院の整備に関する決議について P 参1～	添付なし。

※PFI方式の採用
（費用比較）
基本構想 P 33

⑥ 費用比較の検討

事業方式の選定にあたっては、従来方式とPFI方式の整備費用と運営期間中の維持管理費用や委託費等を合算した費用（ライフサイクルコスト）の費用比較を行いました。PFIの諸条件は他自治体における病院PFI事例を参考に想定し、その上で試算を行いました。

○事業費総額の試算（30年間経費総額の比較）



※PFI方式については、15年間でPFIによる整備・運営を行い、その後の15年間はPFIに準じた運営を行うと想定して試算しています。
※初期投資にかかる資金調達の約半分は民間資金を活用しています。
※資金調達の借入期間が異なる（起債：30年、民間資金：15年）ことを、利息の算定に反映させています。

試算の結果、新病院開院後30年間にわたる経費の総額を従来方式での整備とPFI方式での整備と比較しますと、PFI方式が従来方式よりもライフサイクルコスト合計が約85億円（約2.7%）低減する結果が得られました。